



日和山

新潟市立日和山小学校
学校便り 第88号
令和5年3月20日

もし、こんなお兄さん、お姉さんがいたのなら……

校長 宇ノ井 修二

1月、体育部主催の「長なわタイム」を実施しました。

10時20分の2時間目終了と同時に、全校児童、全職員の大移動です。各クローバー班（1年生から6年生までの縦割りグループ）に割り当てられた場所で、集まった人からどんどん長なわの練習を始めます。体育館や教室前など、校舎内の広い場所をすべて使います。10時30分になると、校内放送でカウントダウンが始まり、2分間でどれだけ跳べるのか、チャレンジタイムのスタートです。すべての班の目標は、過去の自分たちのベスト記録の更新。児童玄関にはり出された一覧表に記録を記入すると、新記録を樹立したグループには、黄金のシールがプレゼントされます。ほかの班と競うのは、更新回数です。苦手な子がいたとしても、班長を中心にしてみんなでサポートし、励まし合いながら上達していきます。跳べなかった子は、跳べるようになり、跳んでいた子は、より早いタイミングで跳べるようになっていくのがよく分かります。なわ跳びの得意な子が多いグループは、もともと記録が良いため、ベスト記録を更新するためには、それなりの努力が必要となります。でも、それをやってのけるのが日和っ子です。記録更新回数で競うため、上手いかどうかは関係ありません。自分たちの努力が、そのまま記録に反映されます。



そんなときの6年生の活躍は見事です。跳べない子に、走りこむタイミングを教えたり、背中を押してスタートさせてあげたり、中には一緒に掛け声を掛けながらスタートを促す子もいます。何よりも上手いと感じたのは、回し手になったある6年生です。そのある2人を紹介します。

何の気なしに回しているのではなく、その6年生の男の子をよく見ていると、長なわを跳ぶために走りこんでくる子によって、回し方を微妙に調節していることが分かるのです。跳ぶことが苦手な低学年が走りこんでくる順番になった時には、なわのスピードが微妙に遅くなり、その苦手な低学年がジャンプした足もとを、瞬間的に長なわをスッと通してやっているのです。「跳ばせてやっている」という表現の方が妥当なのかもしれません。低学年の子の意識は、「ちゃんと跳べた」となるのでしょうか、見ていた私の意識は、「6年生がジャンプしている低学年の子の足元目掛けて、なわを通過させてやった。」と見えるのです。でも、その低学年の子は、自信をもち、タイミングよく跳ぶことができるようになっていくのです。別の6年生のある女の子は、視線がすごいのです。すべての子が跳びやすいように、1人1人の足元を見つめながら、常にひざを曲げるようにタイミングを計り、足もとをなわが通過するように回してやっているのです。目の前の低学年の子の動きに合わせて配慮しながらなわを回しているその子は、活動後にグループの担任教師が新記録樹立を賞賛し、拍手し始めると一緒になって拍手し、グループのメンバーを賞賛していました。



私は、なわ跳びに関して言うと、それほど得意ではありませんでした。でも、もし、私にこんなお兄さんやお姉さんがいたら、長なわ跳びが得意になるだけではなく、もっと違った人間になっていたような気がしてなりません。この2人が行動や態度で作り出す「プラスの雰囲気」に触れていたら、もっともっと楽しいことがたくさんあったらと思うからです。「ステキな雰囲気を作り出すのは、言葉掛けだけじゃないのだな。」と、この2人の6年生を見ていて強く思いました。

3月10日（金）、常時活動がない総務委員会が、6年生から5年生への引き継ぎのために、児童玄関で「あいさつ運動」を実施してくれていました。児童玄関の雰囲気が、いつも以上に活気に満ちあふれています。

残念ながら、6年生はもうすぐ卒業です。でも、大丈夫。彼らが残してくれた、プラスの雰囲気が日和山小学校に満ちあふれています。

まもなく、令和4年度が終了します。巣立っていく令和4年度6年生を日和山小学校にかかわる全員が応援しています。

輝け！

（「6先生ありがとう週間」のスローガンより）

6年生ありがとう週間・6年生に感謝する会

5学年担任 近藤 真弓

日和山小学校のために活躍してくれた6年生に感謝の気持ちを伝えようと、5年生が中心となって5年生が計画、準備、実行した「6年生ありがとう週間（2月16日から24日）」、「6年生に感謝する会（2月24日）」が行われました。今年のスローガンは、「笑顔と思い出をプレゼント 輝け！最高の6年生 未来に向かってはばたこう」でした。

「6年生ありがとう週間」では、「6年生お祝い放送」「6年生と遊ぶ会」「6年生へのプレゼント」を行いました。「6年生お祝い放送」では、事前に6年生に6年間の小学校生活にかかわるアンケートを取り、その結果をランキング形式で発表をしたり、1年生から5年生の思い出の写真をスライド紹介したりしました。懐かしい写真に、当時を思い出し、ほっこりしていた6年生でした。「6年生と遊ぶ会」では、事前にクローバー班で、5年生を中心に6年生と遊ぶ内容を考えました。班のみんなで、6年生と楽しめる遊びを考えていました。当日は、6年生と楽しく交流しながら遊んでいました。遊んでいる時の6年生の顔は笑顔であふれていました。「6年生へのプレゼント」では、花のペンダントを作りました。1年生が描いた6年生の似顔絵の周りに、1年生から5年生が書いた花びらのメッセージを貼って、すてきなペンダントが完成しました。6年生は、みんなからのメッセージをじっくりと読み、とてもうれしそうでした。

24日（金）には、「6年生に感謝する会」を行いました。久しぶりの全校で集まる会となり、体育館は6年生への感謝の気持ちで一杯となりました。1年生のかわいらしいダンス。2年生の心がこもった素敵なダンス。3年生は、きれいな音色のリコーダーと歌の発表。4年生は、6年生のすごいところやかっこいいところを伝えたり、クローバー班の6年生を紹介したりしました。どの学年も、6年生に喜んでもらおうと趣向を凝らした出し物と演出で盛り上げました。5年生は、出し物こそありませんでしたが、司会進行、オープニングとエンディング、入退場の演出、垂れ幕、くす玉などを担当しました。6年生も、6年間の思い出を劇で発表してくれました。それぞれの学年で心に残った出来事を寸劇でつないでいき、みんなを楽しませてくれました。最後は、1～5年生で「空も飛べるはず」の替え歌を歌い、体育館一杯に響き渡る歌声で、6年生への感謝の気持ちを伝えました。



「6年生ありがとう週間」「6年生に感謝する会」を通して、1年生から5年生までの児童は、6年生にたくさんの「ありがとう」の気持ちを伝えることができました。6年生は、在校生の思いを知り、日和山小学校での新たな思い出を増やせました。温かい感謝の気持ちがあふれた「6年生ありがとう週間」「6年生に感謝する会」でした。